# 困った時の神頼み!

平井純譌

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

## 注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
困った時の神頼み！

【Ｎコード】
Ｎ９５２５Ｒ

【作者名】
平井純譌

【あらすじ】
近年、科学の発展には素晴らしいと感じるが…頑張り過ぎてうっかり「神様がいない！！」ことも証明完了。
そんなことが世間に浸透してしまい神社業界に不況の嵐が吹く。
そんな社会を逞しく生きていこうとする神社を切り盛りする双子の姉妹と神様のクセに文句ばかり言う居候の蛇神。
果たして失った信仰心を取り戻せるのか？

## ぷろろーぐ（前書き）

地震…すごかったです。
とりあえず生きていますので安心してください。

## ぷろろーぐ

神がいることを証明するならば我々が生きている世界で完全で絶対的なモノがあることを証明すれば良い……
でも完全で絶対的なモノってないよね……

人間もいつかは死んじゃうし、花瓶やお皿も壊れちゃう。
形あるものは壊れるって親が教えてくれたけど…じゃあ、完全なモノってないじゃん…

こんな事実がある。でも歴史的には禁句となった大事件。
「神様がいないことが数学で証明されちゃったこと」を……
神様って人間の脳が「死の恐怖」から逃げるために偶発的に生まれた代物かな？
それとも……まだ我々が認知していないだけか？
わかんないよ……

＊＊＊＊＊＊＊

「信じらんない！！」
髪を短く切り揃えた女の子が駅前で拾ってきた新聞をビリビリに破いた。
「おのれ数学者め！！こんなしょうもない証明を！！」
1話目から新聞社を敵に回す行為をしているが、それは彼女の生活に直結しているからに他ならない。

しかしその話を聴いている（？）輩は少し面妖である。
「だからぁ！！雨が降った日にシーラカンスを乱獲をして店に売っちゃえば借金なんてあっという間だよ！！」
「いや、リスクは高いがカブを日曜に買って売値が高い時に売った

方が早いと思うぞ」
某有名ゲームの説明書と攻略本を眺めながら議論をしている2人の者がいた。
「こんなことが世間に知られたら（生活の話）」
「そしたらシーラカンスを軍資金にしてカブを大量購入でどう…（ゲームの話）」
「……それなら釣竿が必要になるから村の果物を5個売って買えばいいな（ゲーム）」
「でもアコヤガイは1個売るだけで１２００ベルだからそれを探した方が」
「でも中々見付からないって攻略本に書いてあるぞ」
「そっか…」

「……」六畳一間の狭い部屋で明らかに自分だけが浮いていると何となく感じたショートカットの女性。
こっちの生活がピンチだろうが！！
そっちの世界の借金はどうでもいいんじゃ！！
「きけぇぇぇー！！死活問題だボケがぁぁ！！」

ショートカットの女性は、一人と一柱を緑色のドーナツ形のクッションに座らせ説教モードとなる。
「っで…何！？」
ドーナツ形の所でとぐろを巻いてヤル気無さそうにしている蛇が言った。
……蛇？
「はいじゃあ問題よ！！鎌螺（かまら）答えて！！数学的に神様がいないことが証明されたことと私達の生活との繋がりは？」
正座をしているボォーとした女の子にビシッと指さした。
「賽銭がなくなる……神社の経営が難しくなる…蛇神様の威厳がなくなる…路頭に迷う…サラ金に「だあぁぁ！！あまり詳しく言わな

いで」」
サラッと怖いことを言った。
そうだよ…怖いお兄さんが来ちゃうよ…これからのことを暗示していそうで…
「まあ、ひとまず！！神様がいないのに神社に来る人はいないわよね」
「まあそうだな…逆に詐欺で逮捕されかねんな」
「そうなのよ！！山海神社が潰れたら…ってもっと最悪の事態に発展しとる！！」

さあ、読者のクエスチョンマークが増えてきた所で話しの整理をしましょう。

まず、神様不在のことを知らせた女性は「山海雨螺（せんがいあまら）」

その双子の妹の「山海鎌螺（せんがいかまら）」

ここまでは何処にでもいる姉妹だが、もう一つの存在がおかしい。
文中で何気なく出演している青大将（白蛇）「夢寐（むび）」
とりあえずよく喋るゲーム好きな蛇神と思って下さい。

この双子が言っている神社とは夢寐を社とする「山海神社」であり…この家の収入を参拝客の賽銭で大体、賄っている。
そんな中で「神様！？そんなのいないよ！！」ということになってしまったら生活が貧困になるのは誰の目にも明らかである。

さて話しを戻して……
「しょうがないんじゃないの！？……時代の流れだよ」
「気軽に神様が時代の流れというな！！…神様なんだから私達の生活を救ってよ」

「あームリムリ」ガラガラ蛇のように尻尾を振る。
そこで鎌螺の「なぜなら…」
「「信仰心がないと何も出来ないもん！！」」
何故か誇らし気に…
「昔のかっこいい姿だったら色々出来たんだがなぁ…今となっちゃ…手も足も出ないや…蛇だけに」
「わぁー！！上手いウマい」
パチパチと拍手をする鎌螺。
「上手くないわ！！何の解決にもなっとらんし！！」

そんな珍妙な三人がいる所は夜刀ノ町（やとの町）にある共同アパート「キリガスミ」
家賃　　月三万円
六畳一間　ガス台と水道有り
トイレ、風呂共同
築三十年
まあ、かなりボロいのですが……

＊＊＊＊＊＊＊

今日の夕食
雨螺……アタシの塩（塩ラーメン）
鎌螺……元祖！！焼きそば（マヨネーズビーム付き）
夢寐……カレーうどん（蛇なので頭から突っ込んで食す）

「さて…まじで生活がヤバイわよ…」
日進のカップラーメンをすすりながら雨螺が話す。
「ヤバイって何がだよ」
夢寐がラーメンから顔を上げ訊いた。
「その前に…アンタ神様のクセに俗ものを食べるの？神様なら食べなくても死なないんじゃないの？」

「バァーカ！それは上級の神様だけだよ！！俺のような低級の土地神は食べないと飢え死にしてまうわ！！おい、焼きそばよこせ」
「やだ…カレースープ全部と焼きそば一本となら交換してあげる…」
頭の上に焼きそばのカップを持ち上げる鎌螺。
「ケチいな！！？お前…大体マヨネーズがあるんだから一番カロリーが高いだろ！！少し位よこせ」
「うるさい非常食……」
「非常食ってお前！！俺を食うつもりかよ！！神殺しは大罪だぞ」
夕食を巡って繰り広げられる人間と神様の醜い争い。なんとも器の小さい神…

「いい加減にしろぉぉ！！少しだけでも今後の対策を考えないとマズいんじゃぼけ！」
蛇と取っ組み合っている鎌螺目がけてドーナツ形のクッションを投げつけた。
しかし、クッションは鎌螺に当たらずにサイズが小さめの夢寐にジャストミートした。
ギャフンってね……

夕食を堪能し終わった三人は、輪になって山海家の収入について話しを開始した。
「とりあえず神社の賽銭が当てに出来なくなったからあたしと鎌のアルバイト時間を増やさないとマズいわね…」
雨螺がスーパーのアルバイトの分担表を畳の上に置いた。
もし余裕があれば！といった感じで新規のアルバイト募集の広告を数枚出して並べた。
「う～ん！！閉店間際のパートはそのままにしないと消費期限がギリギリのお弁当が貰えないし…」
「私もコンビニのバイトを増やして……！！」
鎌螺は、無表情に隣にいる蛇を見つめた。

「な、何だよ！！？」
「いや、リストラされたお父さんってこんな感じかな！？って思って……肩ないけど肩身が狭い？」
「一言多いんだよ！！てめえは…でも…確かにこのままじゃヤバイな…信仰心がないと土地神は消滅しちまうから……明日からボチボチ対策を始めないと…」
　少しだけ夢寐が何処か寂しげに見えた。
信仰心の薄れは繋がりの薄れ。
自然淘汰の法則で次に消えてしまうのは、人々から必要とされなくなった神様かも……
「まあ、すぐに現状を打開出来る案が出るわけないから…各自！！自分の出来ることを精一杯やっていくこと！！貧乏に負けない山海家のモットーは？」
雨螺がそう呼びかけると鎌螺と夢寐が応えた。
「「死んでなければ何とかなる！！」」

さて今回から始まった物語「困った時の神頼み！！」
不況に負けない双子の姉妹と神様のクセに文句ばかり言う蛇神様。
そんな二人と一柱が織り成すちょっと不思議な話。

始まり始まり♪

## ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9525r/

困った時の神頼み!

2011年10月9日23時44分発行